

言語習得過程から見た 日本語の名詞修飾節

大関浩美(麗澤大学外国語学部)
hoozeki@reitaku-u.ac.jp

本発表の内容

日本語L1の幼児が使用した名詞修飾節を、
英語L1の幼児が使用した関係節と比較

1. 統語的観点から
 - ・統語関係に関わらず使用
 - ・長く複雑なもの
 2. 意味・機能的観点から
 - ・属性・状態を表す
 - ・指示物を特定する機能
- ⇒日本語の名詞修飾節を考える



2

言語習得データの役割

- 言語習得メカニズムの解明
- 言語学・言語類型論等の分野への貢献

「言語習得のあらゆる面で、学習者は習得しようとする言語の類型論的特徴に導かれ、また制限される」

(Slobin 1993)

- ⇒ 類型論的特徴が習得過程にどう影響するか。
・得られたデータには、どんな類型論的特徴が影響したのか。

研究の中心とした構造

- 英語の関係節習得と比較するため、「内の関係」(寺村1975)を中心に分析

[私が昨日買った]本
(分析の中心)
[私が本を買った]話
[魚を焼いた]におい

4

他言語との比較における、 日本語の名詞修飾節の特徴

- 修飾節前置型 (prenominal) である。
- 名詞修飾節だということが統語的にも形態的にも明示されない。
- 修飾節と被修飾名詞との関係が明示されない
 - ・ [私が買った]店
店を買った? 店を買った?
- 同格節も同じ構造で示される
 - ・ [太郎が泣いた]話

5

日本語の名詞修飾節の特徴

- 下接の条件 (subjacency condition) の制約を受けない。
 - ・ [[可愛がっていた]犬が死んでしまった]少年
(久野1973)
- 「格関係」では説明できない修飾も可能
 - ・ [アルバイトした]お金 (加藤2000)

名詞修飾節の取り出し

- 名詞修飾節が含まれている文の取り出し。
 - ① 動詞が名詞を修飾しているもの。
[食べる]もの [今住んでいる]アパート
 - ② 形容詞が補語を伴い名詞を修飾しているもの
[髪が長い]人 [私が好きな]食べ物
- 分析からはずしたもの:
 - ・被修飾名詞が形式名詞(「はず」「わけ」等)
 - ・「とき」「場合」などを修飾し副詞節として使われたもの

使用したデータ

(大関2008; Ozeki&Shirai 2007, 2010)

- CHILDES database (MacWhinney 2000, Oshima-Takane & MacWhinney 1998)
 - Sumi (野地 1973-1977)
 - Taa (国立国語研究所 1982-1983)
 - Tai (Miyata 2000)
 - Ryo (Miyata 1992, 1993)
 - Aki (Miyata 1995)
- 成人母語話者:「インタビュー形式による日本語会話データベース」(上村1997)から15名分

8

データの詳細

	収集期間の年齢	収集回数	修飾節の初出年齢	修飾節使用数
Sumi	0;0-3;11	1331	2;2	309
Taa	0;11-3;11	207	2;1	148
Tai	1;5-3;1	75	1;10	68
Ryo	1;3-3;0	82	2;7	12
Aki	1;5-3;0	56	2;9	11

1. 統語的観点から

被修飾名詞と修飾節の文法関係の習得難易への影響

[写真をとっている]女の人

→ 女の人が写真をとっている(主語)

[京都でとった]写真

→ 京都で写真をとった(目的語)

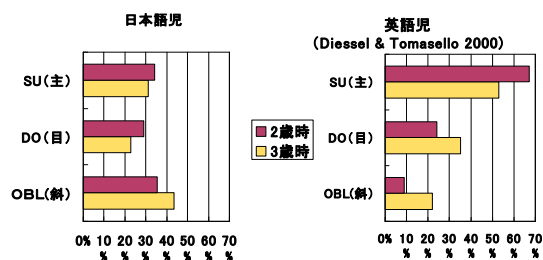
背景: Noun Phrase Accessibility Hierarchy
(NPAH :Keenan & Comrie 1977)

SU>DO>IO>OBL>GEN>OCOM

先行研究では

- 英語・日本語とも、実験研究では、実験方法の問題もあり、はっきりした結果は出ていない。
(L2習得では、英語ではほぼNPAHに沿う。日本語では結果は一致しない)
- 英語L1幼児の自然発話を見た研究では...
Diessel & Tomasello (2000)
幼児4人の長期的(2;09-5;02)自然発話データを分析
⇒ SU > DO > OBL

文法関係から見た幼児の修飾節 (大関2008; Ozeki & Shirai 2007)



12

日本語L1児の使用したOBLの例

- [ままごと遊ぶ] ものは？ (Sumi 2;3)
- [飴を買う] お金 (Sumi 2;7)
- [この間乗った] やつ (=電車) (Tai 2;2)
- これ、[シュトロー(ストロー)で飲む] ところなの。(Taa 2;7)

長い修飾節・複雑な修飾節の使用

- [レコード回って、クルクル回って、電気パツてちゆく (=つく)] *の物、怖い。(Taa 2;3)
- [[クレヨンもらった]お兄ちゃんにもらった] 飴ちゃん (Sumi 2;10)
=the candy [which I got from the guy [from whom I got crayons]].

なぜ、2歳10ヶ月の幼児に、これが言えるのか？

これらの結果から...

- 日本語の名詞修飾節習得には、NPAHが予測するような文法関係は影響がない可能性
なぜ？
- 日本語では、被修飾名詞との文法関係による統語的・形態的な違いがない
 - [着物着た]おばけ (Taa 2;2)
 - これ、[もらった]やつ (Tai 2;1)
 - [この間乗った]やつ (=電車) (Tai 2;1)
- * [刺す]物 (Sumi 2;8) vs. [さーつと刺す]物 (Sumi 2;9)
ホチキスの針(DO) 刀を刺す鞘(OBL)

Comrie による新しい類型論的主張

- 英語
the book [which the student bought]
↑
Gap(空所)
 - 日本語
[学生が 買った] 本
↑
Gap(空所)
- ↓
- Comrieの主張
[学生が買った] 本

16

日本語を含む多くのアジア言語は...
(Comrie 1996, 1998, 2002)

- gap(空所)はなく、修飾節(modifying clause)を被修飾名詞(head noun)に付加しているだけ。
- ヨーロッパ言語の関係節(relative clause)とは異なる「帰属節(attributive clause)」である。
- 統語的制約は無いが、語用論的制約がある(可能な解釈ができるかどうかで、成立の可否が決まる)。(Matsumoto 1988,1997に基づいた主張)

17

成人日本語母語話者を対象とした
文処理研究では...

- SUのほうがDOより文処理が早い = 易しい
(Miyamoto & Nakamura 2003; Ueno & Garnsey 2007)

↓ しかし...

これらの研究で使われた文:
被修飾名詞・修飾節中の名詞=どちらも有生
(例)[議員を非難した]記者
有生 有生

最近の文処理研究・コーパス研究から
わかってきたこと

- 高頻度で使われるパターンは、処理が早くなる。
- コーパスでは、被修飾名詞が有生 ⇒ SU
日本語: 87.4% (大関2008: 会話)
ドイツ語: 97.6%
オランダ語: 98.5% (Mak et. al 2002: 新聞)
- ⇒ SU+有生名詞の処理が早いのは、高頻度で使われるパターンだからではないか?
(構造的に易しいのではなく)

ここまでの結果から言えること

- NPAHが習得難易を予測する階層として Universalであるかどうかは疑問
- 日本語の名詞修飾節習得における産出難易が、統語関係による影響を受けない可能性がある
- この結果は、日本語の名詞修飾節がgapがなく修飾節を付加しているだけのattributive clauseだ、というComrieの主張を支持

20

2. 意味・機能の観点から

- Diessel & Tomasello (2000)
 - 英語児の最初の関係節構造は、presentational relative clause (提示関係節)
(例) Here's a tiger [that's gonna scare him].
トラがあの子をおどかさそうとしてるよ。
- presentational relative clause (Lambrecht 1988)
 - 主節で提示された新しい指示対象 (referent) について、関係節でコメント・新情報を述べる
 - 機能的にも構造的にも制限用法とは異なる

日本語では?

- 日本語 (L2) を対象とした研究
 - 増田 (2000, 2002)
 - 「主名詞のありようを表す修飾節」が使われやすい。
 - 齋藤 (2001)
 - 自然習得のL2学習者は、初期の段階で、名詞修飾節を形容詞のように使っているようだ。
- ↓
- 日本語では「状態」を表す修飾節が使われ易い?

修飾節の状態性による分析

状態性・属性性 高

↑ ↓	属性・状態	[着物着た]おばけ [野球する]もの
	習慣	[せいじ君の行ってる]幼稚園
	進行	[お姉ちゃんが見てる]ところ
	過去・未来	[パパからもらった]やつ [僕が乗ってきた]汽車

出来事性 高

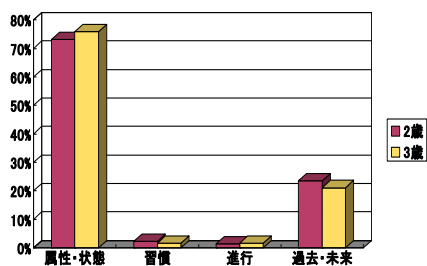
「属性・状態を表す修飾節」

特定時点の出来事・動作・行為を表さない
= 「できごと性」が低い (加藤2003)

- 形容詞節: 「髪が長い人」
- 状態動詞を述語とする修飾節: 「ここにある本」
- 結果の状態を表す「ている」「である」を含む修飾節
- 形容詞的な「タ」を含む修飾節: 「ゆでた卵」
(寺村1984; 金水1994; 加藤2003)
- 「属性叙述」文の連体用法のもの: 「電気で動く車」
(益岡1987, 2000; 山岡1999)
- 恒常的用途を表す修飾節: 「子どもが読む本」

24

結果（大関2008,Ozeki&Shirai2010）



成人母語話者では、「属性・状態」は約50%

25

子どもの初期の名詞修飾節

- [着物着た]おばけ (Taa 2;2)
- [これ入れる]もん、どこにある? (Sumi 2;3)
- [アイスクリームがある]とこ (Tai 2;9)
- ここ、[お汽車の止まる]とこよ (Sumi 2;10)

「過去・未来」をさらに分類すると...

過去・未来	属性的	[パパからもらった]やつ
	出来事的	[僕が乗ってきた]汽車

属性的

- ・被修飾名詞の「来歴」を表すもの(森山1988)
- ・被修飾名詞の現在の状態にかかわる状態変化を表すもの

*「出来事的」:「僕が乗ってきた」ことは汽車の属性には影響を及ぼさない
(高橋1979)

子どもの使った「過去・未来」

- 「過去・未来」のうち「属性的」の割合
 - ・ 2歳時: 77.9%
[もらった・買った・借りた] N
 - ・ 3歳時: 25.4%
- ↓
- 2歳時では、「属性・状態」+「属性的な過去・未来」で全体の90%を占める

90%の修飾節が、何らかの形で被修飾名詞の属性・状態を表すために使われている

徐々に使われ始める「出来事的」修飾節

- あれ、[いつか僕が見に行った]あれじゃね? (Sumi 3;7)
- あれ、[おばあちゃんがお医者さん行った]汽車ぼっぼ? (Sumi 2;9)

さらに...

- 70%以上:「もの」「の」「やつ」「ところ」を修飾
 - [ドンドンってやる]やつ、かして。 (Tai 3;1)
 - [これ入れる]もん、どこにある? (Sumi 2;3)
 - [おかあちゃんのバイバイちゆる]と、ちょうだい。 (Sumi 2;5)

初期の名詞修飾節が使われる文脈

- 初期の使用は、目の前にないか、相手に認知されていない指示物を修飾して使われたものが多い
 - [これ入れる]もん、どこにある？ (Sumi 2;3)
 - [引き出しにある]の、ちょうだい (Sumi 2;4)
 - [スーちゃんにもらった]やつは？ (Tai 2;9)
 - [ちゅいてる]とこ、たれぶ(=食べる)の (Taa 2;2)
- ⇒自分が探している物や欲しい物を特定するために修飾節を使用

被修飾名詞の有生性

- ほとんどが無生名詞: 2歳時95%、3歳時97% (成人母語話者では、76.3%)
 - * 英語L1児は有生名詞も使っている
Here's a tiger that's gonna scare him.
- 幼児が「人」を話題にする場合、身の周りの人
⇒「指示物を特定する」修飾節を使う必要はない

日本語L1の子どもの初期の名詞修飾節は...

- 被修飾名詞の属性・状態を表すものが多い
- 「もの」「の」「やつ」「ところ」などを修飾
- 無生名詞を修飾
- 自分が探しているものやほしいものを特定するために修飾節を使用

33

日本語児と英語児の違い

- 英語では: 目の前にあるものの新情報を提示する presentational relative clause で使われ初める
- 日本語では: 被修飾名詞の属性・状態を表し、指示物を特定する機能(=典型的な制限用法)で使われる

34

なぜ、日本語では属性から？

- 英語
 - 短い修飾成分は名詞の前
 - 長い修飾成分は名詞の後ろ
- 日本語
 - 修飾成分はすべて名詞の前
 - 語・句による修飾と節による修飾は形の上で連続的 (加藤2003、寺村1980)

35

名詞修飾節習得の足がかりは何か？

- 日本語には、修飾節であることを示すマーカがない
 - 項の省略・語順の入れ替えが可能な日本語では、語順も手がかりにはならない
- 「昨日 買った 絵本」
⇒子どもは、「昨日買った」が修飾節だと、何を手がかりに学ぶのか？

日本語の名詞修飾節は、形容詞修飾から連続的に発達

赤いブービー・大きいリンゴ
 ↓
 ねんねするとこ・これ入れる物／おばあちゃんにもらった車
 ↓
 僕が乗った汽車

形容詞による修飾
 ↓
 属性・状態を表す修飾節 (not fully clausal)
 ↓
 テンスのある修飾節 (fully clausal)

(Ozeki, in press)

形容詞修飾から名詞修飾節への発達の連続性

- 日本語では、形容詞の属性や状態を表すという機能がそのまま名詞修飾節に付与されて、連続的な構造として発達



- 英語では、形容詞による修飾構造と関係節構造の間には発達の連続性はなく、別の構造として発達。まず異なる機能を関係節に担わせて使い始める。

日本語の名詞修飾節

- 幼児の名詞修飾節が形容詞から連続的に発達



日本語の形容詞修飾と修飾節の連続性

* 「gap (空所) がなく、修飾節 (modifying clause) を被修飾名詞 (head noun) に付加している構造」とするComrieの主張を支持

* 統語的観点からも意味・機能的観点からも、幼児の言語習得データはComrieの主張を支持

39

主な参考文献

- 大関浩美 (2008).『第一・第二言語における日本語の名詞修飾節習得過程』くろしお出版
- 加藤重広 (2003).『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房
- 金水敏 (1994).「連体修飾の「た」について」田窪行則編『日本語の名詞修飾表現』29-65, くろしお出版
- 国立国語研究所 (1982-1983).『幼児のことば資料』(3)~(6) 秀英出版
- 高橋太郎 (1979).「連体動詞句と名詞のかかわりあいについての序説」言語学研究会編『言語の研究』75-172, むぎ書房
- 寺村秀夫 (1975).「連体修飾のシンタクスと意味ーその1ー」『日本語・日本文化』4, 大阪外国語大学留学生別科(寺村秀夫 (1992) 157-207 に再録)
- 寺村秀夫 (1984).『日本語のシンタクスと意味 II』くろしお出版
- 野地潤家 (1973-1977).『幼児期の言語生活の実態』I~IV 文化評論出版
- 益岡隆志 (1987).『命題の文法』くろしお出版
- 益岡隆志 (2000).『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 増田真理子 (2002).「学習者はどのような連体修飾節を使っているかー日本語学習者が産出したテキストの分析からー」『多摩留学生センター教育研究論集』3, 43-50.
- 森山卓郎 (1988).『日本語動詞述語文の研究』明治書院
- 山岡政紀 (1999).「属性動詞の語彙と文法的特徴」『国語学』197, 105-118.
- Comrie, B. (1996). The unity of noun-modifying clauses in Asian languages. In *Proceedings of the 4th International Symposium on Pan-Asiatic Linguistics*, 1077-1088. Salaya, Thailand: Institute of Language and Culture for Rural Development, Mahidol University at Salaya.
- Comrie, B. (1998). Attributive clauses in Asian languages: Towards an areal typology. In W. Boeder, C. Schroeder, K. H. Wagner & W. Wildgen (Eds.), *Sprache in Raum und Zeit, In memoriam Johannes Bechert, Band 2* (pp. 51-60). Tübingen: Gunter Narr.
- Comrie, B. (2002). Typology and language acquisition: The case of relative clauses. In A. Giacalone Ramat (Ed.), *Typology and second language acquisition* (pp. 19-37). Berlin: Mouton de Gruyter.
- Diessel, H. & Tomasello, M. (2000) The development of relative clauses in spontaneous child speech. *Cognitive Linguistics, 11*, 131-151.
- Keenan, E. L. & Comrie, B. (1977). Noun phrase accessibility and universal grammar. *Linguistic Inquiry, 8*, 63-99.
- Lambrecht, K. (1988) There was a farmer had a dog: Syntactic amalgams revised. *Berkeley Linguistics Society, 14*, 319-339.
- Mak, W., Vonk, W. & Schriefers, H. (2002). The influence of animacy on relative clause processing. *Journal of Memory and Language, 47*, 50-68.
- Matsumoto, Y. (1997). *Noun-modifying constructions in Japanese: A frame-semantic approach*. Amsterdam: John Benjamins.
- Miyamoto, E. T. & Nakamura, M. 2003. Subject/object asymmetries in the processing of relative clauses in Japanese. In G. Garding, & M. Tsujimura (eds.), *Proceedings of the 22nd WCCFL* (pp. 342-355). Somerville, MA: Cascadilla Press.
- Miyata, S. (1992). Wh-Questions of the Third Kind: The Strange Use of Wa-Questions in Japanese Children. *Bulletin of Aichi Shukutoku Junior College, 31*, 151-155.
- Miyata, S. (1993). *Japanische Kinderfragen: Zum Erwerb von Form - Inhalt - Funktion von Frageausdrücken*. Hamburg: OAG.

- Miyata, S. (1995). The Aki Corpus. Longitudinal speech data of a Japanese boy aged 1;6-2;12. *Bulletin of Aichi Shukutoku Junior College*, 34, 183-191.
- Miyata, S. (2000). The Tai Corpus: Longitudinal speech data of a Japanese boy aged 1;5.20-3;1.1. *Bulletin of Aichi Shukutoku Junior College*, 39, 77-85.
- Ozeki, H. (in press). The acquisition of relative clauses in Japanese. In E. Kidd, (Ed.), *The acquisition of relative clauses: Processing, typology and function*. Amsterdam: John Benjamins.
- Ozeki, H. & Shirai, Y. (2007). The consequences of variation in the acquisition of relative clauses: An analysis of longitudinal production data from five Japanese children. In Y. Matsumoto, D. Oshima, O. Robinson & P. Sells (Eds.), *Diversity in language: Perspectives and implications*. Stanford, CA: CSLI Publications.
- Ozeki, H. & Shirai, Y. (2010). Semantic bias in the acquisition of relative clauses in Japanese. *Journal of Child Language*, 37, 197-215.
- Slobin, D. I. (1997). The universal, the typological, and the particular in acquisition. In D. I. Slobin (Ed.), *The crosslinguistic study of language acquisition, Vol. 5: Expanding the contexts* (pp. 1-39). Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Ueno, M. & Garnsey, S. M. 2007. Gap-filling vs. filling gaps: Event-related brain indices of subject and object relative clauses in Japanese. In N.H. McGloin & J. Mori (Eds.), *Proceedings of the 15th Japanese/Korean Linguistics Conference* (pp. 288-301). Stanford, CA: CSLI Publications.